

新規選定 養蚕の隆盛をいまに伝える山村集落

甲州市塩山下小田原上条伝統的建造物群保存地区

所在地 甲州市塩山下小田原^{たちがきょう}字^{かたせ}高地京、^{ひでりくほ}字片瀬及び字日照久保の全域並びに字上
条、^{かじやむかい}字鍛冶屋向及び^{こんごうせん}字金剛銭の各一部

面積 約15.1ヘクタール

甲州市は山梨県北東部、甲府盆地の東端に位置する。保存地区は、甲州市の中央部、甲府盆地を南に望む山麓にある山村集落である。

上条における集落の成立時期は明らかではないが、^{かんのんどう}集落内の^{もくぞうひやく}観音堂に安置される木造百^{かんのんぞう}観音像の制作に関わる史料などから、江戸時代中頃には現在とほぼ同規模の集落があった様子がうかがえる。江戸時代には畑作を中心に営み、明治時代中期以降、政府の振興策や技術の進展に呼応して養蚕に転じた。養蚕が衰退した昭和50年代以降は、果樹栽培を主産業として現在に至っている。

保存地区は、山麓の南斜面に形成された集落と、その南側に延びる丘陵地からなり、東西約320メートル、南北約860メートル、面積約15.1ヘクタールの範囲とする。

丘陵地の^{おねづた}尾根伝いから集落の中心部を貫いて旧道が南北に通る。集落内には旧道から別れて延びる里道に面して民家が配され、民家の周辺が畑地となる。集落南側に面する丘陵地の北端に^{かないかり}観音堂が建ち、丘陵地の中央付近に^{ふくぞういん}金井加里神社、また丘陵地の南麓に福蔵院が境内を構える。

民家の敷地は、等高線に沿って細長く造成され、その中ほどに^{おもや}主屋を建てる。主屋は、^{きり}切^{つまづくりかやぶき}妻造^{ひらやだて}茅葺で平屋建を基本とする。江戸時代中期から明治時代にかけて建てられたものが良く残る。明治時代中期以降、養蚕が主産業になると、屋根裏で養蚕を行うために主屋の屋根前面の中央部を切り上げた^{つきあ}突上げ屋根が設けられるようになり、昭和以降には^{むねこし}棟に越屋根を上げた^{さんがわらぶき}切妻造^{せん}棧瓦葺の主屋も建てられ、地域独特の特徴的な集落の景観が形づくられた。

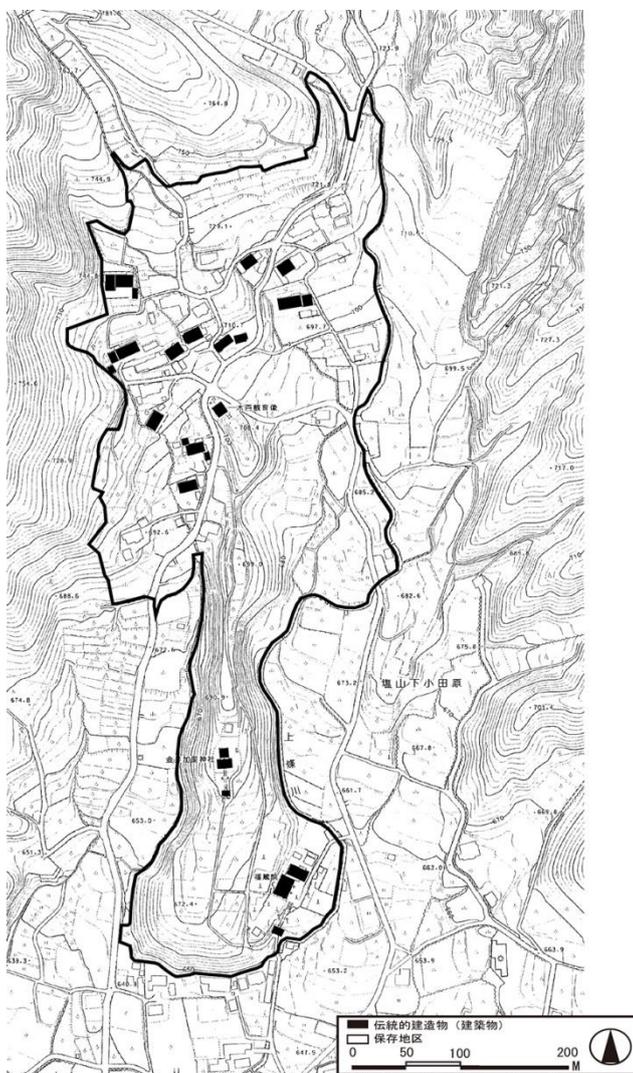
甲州市塩山下小田原上条伝統的建造物群保存地区は、江戸時代中期から昭和にかけて建てられた地域独特の形式をもつ民家がまとまって残り、それらが周囲の畑地や自然環境と一体となって、江戸時代以来の伝統的な集落の形態を良くとどめており、我が国にとって価値が高い。



甲府盆地を望む集落の全景
民家が周囲の畑地や自然環境と一体となった集落



尾根伝いの旧道からみた集落の中心部
突上げ屋根をもつ主屋が連なる独特な景観



甲州市塩山下小田原上条伝統的建造物群保存地区の範囲